

日本古生物学会 第166回例会

2017年1月27日（金）～1月29日（日）：早稲田大学 早稲田キャンパス

***** 1. プログラム 概要 *****

1月27日（金）会場：大隈記念講堂大講堂

- 【13:30-17:40】 シンポジウム「硬組織に秘められた化学的古生態情報を読み解く」・ii
- 【18:15-20:15】 懇親会（大隈ガーデンハウスカフェテリア）・・・・・・・・・・iii

1月28日（土）会場：大隈記念講堂大講堂（特別講演）・早稲田大学16号館1階 (A会場・ポスター会場)・16号館7階(B会場・C会場)

- 【9:30-10:30】 学術賞受賞記念特別講演1（大隈記念講堂）・・・・・・・・・・iii
- 【10:40-11:40】 学術賞受賞記念特別講演2（大隈記念講堂）・・・・・・・・・・iii
- 【13:00-14:00】 一般講演ポスター発表コアタイム（ポスター会場）・・・・・・・・・iii-v
- 【14:15-15:15】 一般講演 口頭発表1（A～C会場）・・・・・・・・・・v-vi
- 【15:30-16:30】 一般講演 口頭発表2（A～C会場）・・・・・・・・・・vi
- 【16:45-18:00】 一般講演 口頭発表3（A～C会場）・・・・・・・・・・vii
- 【18:15-18:30】 ポスター賞表彰式（ポスター会場付近）・・・・・・・・・・vii
- 【18:30-20:30】 夜間小集会（B, C会場）・・・・・・・・・・vii-viii

1月29日（日）会場：早稲田大学14号館4階

- 【9:15-10:30】 一般講演 口頭発表4（A～C会場）・・・・・・・・・・viii-ix
- 【10:45-11:45】 一般講演 口頭発表5（A～C会場）・・・・・・・・・・ix-x
- 【13:00-16:00】 化石友の会イベント・・・・・・・・・・x

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）・・・・・・・・・・xi

その他会場案内など・・・・・・・・・・xi-xvi

166回例会参加費 一般会員・非会員 5,000円 学生会員 2,000円 友の会会員 1,000円
高校生以下無料（予稿集は有料1冊500円）

***** 2. プログラム 詳細 *****

1月27日（金）

【13:30-17:40】大隈記念講堂大講堂

シンポジウム「硬組織に秘められた化学的古生態情報を読み解く」

コンビナー：守屋和佳（早大・教育）・高木悠花（東大・大気海洋研）・平山廉（早大・国際教養）

様々な形で堆積物中に保存される化石のなかでも、硬組織として保存されるものは、形態の機能や適応、さらには形態空間内における指向性とその進化などが議論されてきた。一方で、直接形態には反映されない、あるいは、我々が形態に反映されていると認知していない古生態に関する情報については、形態解析のみから明らかにすることは容易ではない。そのような場合でも、硬組織の内部には、研究対象となる生物の行動の過程や代謝などの生理過程を通じて、生態学的情報、あるいは生物体周囲の環境情報が記録されることがある。この生態学的情報を反映する硬組織の化学・物理化学組成を解析することで、従来の形態空間の解析に新たな地球化学情報を付加し、新しい空間を構築することが期待される。さらに、近年では、分析技術の発展から、これまでよりも高空間解像度で、新たな素材や、極微量の試料からの分析も可能となってきた。本シンポジウムでは、このような硬組織に残された地球化学的情報の解析から、化石に隠された情報を提示するアプローチについて紹介し、今後の形態・化学指標空間の構築の可能性を模索したい。

13:30-13:40 趣旨説明..... 守屋和佳（早大・教育）

第一部「個体の成長と生息場所の解析」

13:40-14:15 殻体の炭素・酸素同位体比分析から探るアンモナイト類の生息域の進化
..... 守屋和佳（早大・教育）

14:15-14:50 骨組織の化学組成は脊椎動物の生活史を記録するか：

骨の構造的制約と期待できる成果 中島保寿（東大・大気海洋研）

14:50-15:25 生物源炭酸塩に記録された生態履歴の高解像度抽出への挑戦：

魚類耳石を例として 石村豊穂（茨城高専・物質工学）

- 休憩 - 【15:25-15:40】

第二部「従属及び独立栄養生物の栄養動態の解析」

15:40-16:15 地球化学分析による化石哺乳類の進化生態学へのチャレンジ

..... 木村由莉（国立科博・地学研究部）

16:15-16:50 二枚貝の多様な栄養生態は化石に保存されるか？

深海の化学合成依存性から干潟のアサリまで . 山中寿朗（東京海洋大）

16:50-17:25 浮遊性有孔虫の光共生の光合成生理と殻体安定同位体比古生態

..... 高木悠花（東大・大気海洋研）

17:25-17:40 総合討論

【18:15-20:15】 懇親会（大隈ガーデンハウスカフェテリア）

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前にメールかハガキで、1月16日（月）
【必着】までに、お申し込み下さい。

会 場：大隈ガーデンハウスカフェテリア（25号館）2階

会 費：一般会員・非会員・友の会会員…6,000円，学生…4,000円

申込先：高木悠花（東京大学大気海洋研究所）

メール：kmrypsjp@edu.waseda.ac.jp ※件名は「日本古生物学会懇親会申込」とし、
会員の種別（一般・友の会・非会員・学生）を明記してください。

ハガキ：〒277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター 高木悠花 宛

1月28日（土）大隈記念講堂・16号館1階（A会場）・16号館7階（B・C会場）

【9:30-10:30】 学術賞受賞記念特別講演 1（大隈記念講堂大講堂）

小林快次 「恐竜類の古生態学的研究」

【10:30~10:40】 休憩

【10:40-11:40】 学術賞受賞記念特別講演 2（大隈記念講堂大講堂）

板木拓也

「放散虫に基づく古海洋学：古典研究の向こうにあるものを目指して」

【11:40~13:00】 休憩

【13:00-14:00】 一般講演 ポスター発表

（奇数番号コアタイム 13:00-13:30 偶数番号コアタイム 13:30-14:00）

- | |
|---|
| P01 池原研・宇佐見和子 三陸沖表層堆積物中の 2011 年東北沖地震イベント堆積層の保存ポテンシャル |
| P02 亀尾浩司・渡辺賢人・羽田裕貴・岡田誠・菅沼悠介 房総半島国本層における Matuyama-Brunhes 地磁気極性反転境界付近の石灰質ナノ化石と表層海洋環境 |
| P03 佐藤善輝・今野進・代田景子 浜名湖および上甕島・海鼠池の湖底堆積物から見出された Plagiogrammaceae に属する珪藻種の形態的特徴 |
| P04 上栗伸一・Ted Moore 東赤道太平洋における前期/中期中新世境界付近の海洋環境変遷 |
| P05 新村憲人・益子佳公・石寄美乃・岸本直子・相田吉昭 X線 micro-CT による <i>Glomeropyle</i> 属放散虫の形態と内部構造-その 1 <i>Glomeropyle</i> sp. の解析 |
| P06 益子佳公・新村憲人・石寄美乃・岸本直子・相田吉昭 X線 micro-CT による <i>Glomeropyle</i> 属放散虫の形態と内部構造-その 2 <i>Glomeropyle waipapaensis</i> の解析 |

- P07 山本秀忠・所佳実・岡田誠・林広樹 鮮新-更新統千倉層群布良層における浮遊性有孔虫化石を用いた古海洋環境復元
- P08 佐多美香・池原実・林広樹・河瀨俊吾 浮遊性有孔虫群集と酸素同位体比に基づく本州南方黒潮流域における MIS 5 から MIS 6 の古環境変動
- P09 宇佐見和子・池原研・Michael Strasser・S0-251A 乗船研究者一同 日本海溝底の重力流堆積物から産出した底生有孔虫群集
- P10 長井裕季子・植松勝之・豊福高志 有孔虫殻形成における有機膜と炭酸塩結晶の関係
- P11 小林立至・石川彰人・磯和幸延・竹内猛・西辻光希・大野良和・藤田和彦・佐藤矩行・豊福高志・遠藤一佳 プロテオーム解析による大型有孔虫の殻形成遺伝子の探索
- P12 田尻理恵・伊勢優史 硬骨海綿類の硬組織と軟組織の同時観察法～岩石薄片技術の応用～
- P13 今井啓文・北村晃寿・宮入陽介・横山祐典・徳田悠希 伊豆諸島神津島の後期完新世の隆起単体サンゴ
- P14 延原尊美・伊東祐二・徳田悠希・椎野勇太・池原研 東海沖の底生動物の分布特性 ～貝類・腕足類・サンゴ類～
- P15 小長谷美沙・三宅由樹・野崎篤・楠稚枝・宇都宮正志・間嶋隆一 下部更新統上総層群野島層模式地(横浜市)の層序と堆積環境
- P16 横山紀樹・近藤康生 鮮新統穴内層から産出するバカガイ科二枚貝 *Maetra* sp. の殻形態：バカガイ属現生種との比較
- P17 菊池直樹・伊左治鎮司・近藤康生 上総層群万田野層(中部更新統)からの絶滅種厚殻オオハネガイ類の産出
- P18 山岡勇太・近藤康生 高知県の上部新生界唐ノ浜層群から産出した暖流系貝類群集の時間的・空間的変化
- P19 中山健太郎・近藤康生 鮮新統穴内層から産出した腹足類 *Umbonium* (*Suchium*) sp. の形態、色彩パタン、成長および系統
- P20 増川玄哉・安藤寿男 那珂湊層群から産出した異常巻アンモナイト *Diplomoceras* の意義
- P21 小池翔子・河部壮一郎・佐藤正明・岡本隆 アンモナイト理論形態の模型を用いた生息姿勢の復元
- P22 三上智之・岩崎渉 パレート最適性はアンモノイド類の表現型進化を制約するか? —系統学的観点からの再検証—
- P23 安藤佑介・河野重範・加藤久佳・鶴飼宏明・廣瀬浩司・田中源吾・村宮悠介 御所浦島(熊本県天草市)北部の海底堆積物から産出したオオスナモグリを含む十脚類遺骸群集
- P24 小沢広和 富山県の八尾層群(前～中期中新世)から産出した日本海最古の漸深海オストラコーダ化石群
- P25 田中源吾・逸見泰久 内湾性介形虫 *Pistocythereis bradyi* (Ishizaki, 1968) と *P. bradyforis* (Ishizaki, 1968) の分類学的再検討
- P26 相田裕介・宮田真也・加藤太一・遠藤好 茨城県稲敷郡阿見町の更新統下総層群からのマグロ属椎体化石の産出
- P27 簀本美孝・Paulo M. Brito・岩田雅光・安部義孝 ふくしま海洋科学館所蔵のマダガスカル産三疊紀のシーラカンス
- P28 宇都宮聡・仲谷英夫 鹿児島県長島町獅子島の上部白亜系御所浦層群から産出したエラスモサウルス科(長頸竜目)
- P29 吉田将崇・平山廉・吉村健・佐藤たまき・西村智弘 北海道小平町の上部白亜系蝦夷層群から産出したウミガメ類(カメ目:ウミガメ上科)化石
- P30 武川愛・青木良輔・平山廉・吉田将崇・昆彭生・遠藤秀紀 台湾左鎮から産出した大型ワニ類の分類学的再検討
- P31 林昭次・小林快次・真鍋真・川端清司・塚腰実・金澤芳廣 香川県さぬき市の上部白亜系和泉層群から産出した恐竜類の椎体
- P32 江川史朗・阿部玄武・田村宏治 実験発生学的観点からの恐竜研究
- P33 青塚圭一・伊左治鎮司 千葉県上総層群市宿層より産出したミズナギドリ科の胸骨化石
- P34 浦野雪峰・松本涼子・河部壮一郎・田上響・大橋智之・藤原慎一 クチバシの骨質部形態が制限する角質の成長方向

- P35 久保泰・山田英佑・久保麦野 歯のマイクロウェアから推定されるエクサエレクトドン（獸弓目：トラベルソドン科）の顎運動様式
- P36 加藤敬史 上部漸新統佐世保層群産炭獣科化石の新標本
- P37 江木直子・鏑本武久・ジンマウンマウンテイン・タウンタイ・高井正成 ミャンマー中部始新世ポンダウン動物相のヒエノドン類（Hyaenodontia, Mammalia）集団の古生物地理学的起源
- P38 堀智彦・石川光太郎 脳外部形態による小型食肉目化石の同定
- P39 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・Batmunkh Tsogtbaatar・Byambaa Gunchinsuren・Davaakhuu Odsuren モンゴル東部オンドルハーンより産出した更新世サイ科化石（予報）
- P40 西岡佑一郎・Chavalit Vidthayanon タイで初めて見つかった *Duboisia* 属（偶蹄目ウシ科）化石
- P41 木村敏之 アロデルフィス科内における系統関係及び摂餌戦略
- P42 一島啓人・古沢仁・木村方一 日本初産出のイッカク科化石について
- P43 佐々木友里恵・松原尚志 プラバンを用いた珪藻アートに関する研究 ～道東地域の新生代珪藻化石を例として～
- P44 大橋智之 視覚障害者も含めた古生物を用いた博物館ハンズオン展示の検討
- P45 荻野慎諧 自然科学者の雇用問題へのあらたな取り組み
- P46 鈴木秀史 長野県上田市の中部中新統から産出したミズウオ科魚類

高校生ポスターセッション

- HP1 田中拓海 ワニ類における1本の骨からの全長の推定
- HP2 十倉遥香・高松壮太・吉見幸次郎 丹波竜化石工房の来場者の動態調査
- HP3 増田英敏 葛生地域に分布する海山-礁複合体の堆積環境
- HP4 吉村太郎 生殖周期と成長肋の関係が導くエゾキンチャクガイ（二枚貝：イタヤガイ科）における性的二型の可能性

【14:00-14:15】休 憩

【14:15-15:15】一般講演 口頭発表 1（A～C会場）

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部（1） 座長：對比地孝亘	古生態の部 座長：白井厚太郎	形態解析の部（1） 座長：田中源吾
A01 w 宮田真也・国府田良樹・柳沢幸夫・藪本美孝・角田昭二・加藤太一・安藤寿男・長谷川善和 北茨城市下部中新統亀ノ尾層から産出したサバ科サワラ族魚類	B01 w 佐藤慎一・阪井田卓真・三倉健吾 日本と韓国における肉食性巻貝類の捕食に関する生態学的解析	C01 w 岡本隆 経時的に変形する曲面を記述する幾何モデル
A02 w 林昭次・中島保寿・佐藤たまき・疋田吉識・Martin Sander カナダ Dinosaur Park Formationの非海成層から産出する首長竜類の骨組織：その古生態に関する考察	B02 w 田中颯・藤田敏彦 現生種ニホンマメウニの殻に見られる2種類の穿孔とその生態学的意義	C02 w 生形貴男 アンモノイドの外殻の比表面積の変遷

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長: 對比地孝亙	古生態の部 座長: 白井厚太郎	形態解析の部 (1) 座長: 田中源吾
A03 m 平山廉・中島保寿 白亜紀の巨大ウミガメ類 <i>Platychelone emarginata</i> について	B03 w 石田吉明・真鍋鬘・小原正頭・幸塚久典・藤田敏彦 和歌山県中新統白浜層産星形生痕化石 <i>Asteriacites quinquefolius</i> の形成過程—現生ヒトデ類の埋積実験—	C03 w 井上新哉・小田隆 アンモナイト縫合線の形成メカニズムと軟体部の復元
A04 飯島正也 ワニ類における採餌エコモルフオロジーの評価とその適応的・分類学的意義	B04 w 鈴木碧・ジェンキンズロバート・小木曾正造・又多政博・鈴木信雄 ウミガメ遺骸の腐敗過程と遺骸に成立する生態系	C04 w 田近周・Kenneth De Baets・Dieter Korn・Christian Klug 古生代アンモノイド類における成長を通じた種内変異の比較 (VarioEvoDevo)

【15:15-15:30】休憩

【15:30-16:30】一般講演 口頭発表 2 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 林昭次	古生態・古環境の部 座長: 佐々木猛智	形態解析の部 (2) 座長: 岡本隆
A05 m Koen H. W. Stein・Yuri Bolotski・Ivan Bolotski・Christophe Snoeck・Shoji Hayashi・Khishigjav Tsogtbaatar・Rinchen Barsbold・Shinobu Ishigaki・Pascal Godefroit・Philippe Claeys Bone histology of latest Cretaceous hadrosaurs of Far Eastern Russia	B05 w 嶋田智恵子・齋藤めぐみ・山崎誠・田中裕一郎・疋田吉識 北海道北部天塩中川地域から産出する白亜紀中期の珪藻化石群集	C05 w 關明日香・中島礼・間嶋隆一 横浜市瀬上の下部更新統小柴層から産出した化学合成二枚貝 <i>Lucinoma spectabilis</i> の貝殻微細構造と成長線解析
A06 w 石垣忍・Mainbayar, B.・Tsogtbaatar, Kh.・真加部智大・田部智大・浅井瞳・實吉玄貴 モンゴル国ゴビ砂漠南東部産出の上部白亜系竜脚類足跡化石	B06 w Kazutaka Amano・Robert G. Jenkins・Steffen Kiel Paleocene wood-fall communities from Hokkaido, Japan	C06 田中源吾 デボン紀三葉虫 <i>Erbenochile</i> sp. の複眼の光学的解析
A07 w 黒須球子・平山廉・吉田将崇・武川愛 岩手県上部白亜系久慈層群産獣脚類の分類および比較	B07 w 高橋昭紀・鶴田卓・坂井三郎 安定同位体比から推定される白亜紀二枚貝イノセラムス類の生態と成長様式	C07 w 大野理恵・千徳明日香・升本眞二・江崎洋一 キサンゴ科群体サンゴにおける個体の挙動
A08 m 渡部真人・Tsogtbaatar, Kh. モンゴル恐竜化石群集への faunal turnover 手法の応用	B08 m 白井厚太郎・窪田薫・杉原奈央子・清家弘治・棚部一成 長寿二枚貝ビノスガイに記録された数十年規模の気候変動	C08 w 麻場江莉加・宮田大悟・塚越哲 貝形虫 <i>Neonesidea</i> 属の間隙環境への適応進化

【16:30-16:45】休 憩

【16:45-18:00】一般講演 口頭発表 3 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (3) 座長:久保泰	地史・古環境の部 座長:猪瀬弘瑛	分類の部 座長:ジェンキンズロバート
A09 m 服部創紀・對比地孝亘 獣脚類 <i>Herrerasaurus ischigualastensis</i> の足部筋肉系の復元	B09 m 磯崎行雄・山本伸次・坂田周平・大林秀行・平田岳史 地球最古物質と生命の起源	C09 m 茨木洋介 新潟県糸魚川市青海地域の青海石灰岩より産出した後期石炭紀 (Moscovian) 腕足類 <i>Choristites mosquensis</i>
A10 m 犬塚則久 鳥のはばたき飛行の起源	B10 w 大路樹生・矢田圭吾・金山晃大・石川恭一郎・Stephen Q. Dornbos・Sersmaa Gonchigdorj・高柳栄子・井龍康文 モンゴル西部のエディアカラ系からの左右相称動物の証拠	C10 w 佐藤正・竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛・橋本亮平 相馬中村層群の Haploceratids 群集—新標本の追加—
A11 w 渡辺順也・松岡廣繁・長谷川善和 青森県尻屋地域の更新統より産出した新種ウミガラス類 <i>Uria onoi</i> (鳥綱:ウミスズメ科) の体重推定	B11 w 町田南海子・上松佐知子・指田勝男・Apsorn Sardud タイ王国南部 Satun 地域より産する前期・中期デボン紀化石群集と古環境	C11 w 棚部一成・御前明洋・疋田吉識・西村智弘・Dirk Fuchs 北太平洋域の後期白亜紀鞘形類動物群とその意義
A12 m 渡部真人・Tsogtbaatar, Kh. 恐竜産地の研究への空中写真の応用 1: 河川成層	B12 w 相田吉昭・草場研太・丸山巧・山北聡・竹村厚司・堀利栄・Hamish Campbell・K. Bernhard Spörlri 前期三畳紀のチャートギャップ期に形成されたチャート層の珪質生物源堆積相について	C12 m 松原尚志・佐々木猛智・伊藤泰弘 鳥取県多里地域から報告された古第三紀二枚貝類の再検討
A13 m Tsogtbaatar, Kh.・渡部真人 恐竜産地の研究への空中写真の応用 2: 風成層と湖沼成層	B13 w 小松俊文・重田康成・真鍋真・フン ザン ディン・對比地孝亘・楠橋直・ジュリアン グラン 北部ベトナムニンビン省メ地域に分布する三畳系ソイバン層の地質年代と二枚貝化石群および堆積環境	C13 w 高橋宏和 滋賀県鮎河層群産 <i>Vicaryella bacula</i> について

【18:15-18:30】ポスター賞表彰式 (ポスター会場付近)

【18:30-20:30】夜間小集会

(B 会場)「東アジア後期白亜紀の陸生脊椎動物相を探る」

世話人: 平山廉 (早稲田大学)

趣 旨: 近年は日本国内で後期白亜紀の陸生脊椎動物の発見が相次いでいる。夜間小集会では、代表的な産地の紹介と中国やモンゴルなどを含めた東アジアの後期白亜紀脊椎動物相の比較や時代対比などの課題を考察する。

1. 平山廉「趣旨説明」
2. 池上直樹「熊本県御船層群の陸生脊椎動物相」
3. 三宅優佳・荒巻美紀・小松俊文・對比地孝亘・真鍋真・平山廉・藪本美孝「鹿児島県の甌島列島に分布する姫浦層群の地質年代と堆積環境および脊椎動物化石」
4. 平山廉「日本と中国における後期白亜紀陸生脊椎動物相と生息環境に関する考察」
5. 渡部真人「モンゴル後期白亜紀の陸生脊椎動物相と時代対比」
6. 総合討論

*20:30 より最寄りのレストランで懇親会を予定しています（一人2,000円）。懇親会に参加を希望される方は平山 (renhirayama@gmail.com) にご連絡くださるようお願いいたします。

(C会場)「微化石生物の分子系統学・生態学の最前線 part2 -植物性微化石生物-」

世話人：氏家由利香（高知大学）・豊福高志（海洋研究開発機構）・齋藤めぐみ（国立科学博物館）

趣旨：微化石試料を用いた進化・環境復元などに関する研究発展のためには、分類群の枠を超えた広い視野から微化石類の分子系統や生態を理解することが大変重要である。今回は、光合成機能をもち一次生産者でもある藻類、また共生藻に着目した先端的研究を話題提供して頂く。それを踏まえ、研究分野を超えた研究の現状・展望などの話し合いを通じて、関連研究者の交流・連携を強化し、微化石研究の飛躍・発展へつないでいきたい。

1. 萩野恭子「形態と分子系統で探る円石藻の多様化と環境適応」
2. 香月興太「珪藻群集変化が示す水環境変化と古気候復元への応用」
3. 湯浅智子「放散虫に共生する藻類の多様性」

1月29日（日）早稲田大学 14号館 4階（A～C会場）

【9:15-10:30】一般講演 口頭発表 4（A～C会場）

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部（4） 座長：江木直子	生層序の部（1） 座長：上松佐知子	微古生物学の部 座長：久保田好美
A14 w 北川博道・長谷川善和 埼玉県横瀬町根古谷産出の脊椎動物化石の再検討	B14 w 伊藤剛・栗原敏之・箱岩寛晶・茨木洋介・松岡篤 新潟県糸魚川市小滝地域の礫岩転石から産出したシルル紀放散虫：新潟県内最古の化石記録	C14 w 鈴木紀毅・標準化作業WG参加者一同 新生代放散虫の属名の標準化事業の進展（2016年）
A15 m 蔡政修・甲能直樹 初期ヒゲクジラ類の巨大化	B15 w 猪瀬弘瑛・田沢純一・兼子尚知 福島県相馬の合ノ沢層から産するデボン紀腕足類 <i>Cyrtospirifer</i>	C15 m 石谷佳之 Small Subunit 及び Internal Transcribed Spacer rRNA に基づく放散虫スプレリア目の生物種同定

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (4) 座長: 江木直子	生層序の部 (1) 座長: 上松佐知子	微古生物学の部 座長: 久保田好美
A16 m R. ユワン フォーダイ ス・田中嘉寛・ミーガン E. オ ルテガ ニューゼaland産の 漸新統/中新統イルカ化石と現 生ガンジスカワイルカの起源	B16 m 飛田知世・磯崎行雄・田 畑美幸・松井洋平・坂井三郎・ 西澤学・奥村知世・吉田尚弘 中部ペルム系岩井崎石灰岩上 部の炭素同位体層序とOMZ拡大	C16 m 氏家由利香・木元克典 ・石村豊穂 浮遊性有孔虫1個 体からわかる遺伝子・形態・同 位体 — 3要素同時解析の実 現—
A17 w 高橋亮雄・太田英利 沖 縄県石垣島の上部更新統から発 見されたイタチ類の分類学的位 置づけとその動物地理学的意義	B17 m 桑原希世子・佐野弘好 Latentifistularia 目放散虫に 基づく中-上部ペルム系間隔帯 (岐阜県西部舟伏山地域)	C17 w 前田歩・藤田和彦・堀 川恵司・鈴木淳・吉村寿紘・為 則雄祐・川幡穂高 大型底生有 孔虫の水溫プロキシとしての評 価
	B18 w Yifan Xiao・Weihong He・Li Tian・Noritoshi Suzuki The late Permian radiolarians and the Permian-Triassic deep water ecosystem turnover in South China	C18 m 豊福高志 底生有孔虫 殻形成時の水素イオンの排出に おける pH/pCO ₂ の影響

【10:30-10:45】休 憩

【10:45-11:45】一般講演 口頭発表 5 (A~C会場)

A 会場	B 会場	C 会場
研究史・研究法の部 座長: 遠藤一佳	生層序の部 (2) 座長: 堀利栄	古環境の部 座長: 氏家由利香
A18 m 松原尚志・雲岡梓 江 戸時代の貝化石図譜「閑窓録」 の研究	B19 m 武藤俊・松本廣直・高 橋聡 美濃帯犬山地域の栗栖 セクションから産出した三疊紀 中世のコノドント化石	C19 w 安藤卓人・沢田健 バイ オマーカーに記録されたインド 洋アンダマン海における後期中 新世の海洋生物生産変動
A19 w 矢島道子 地学会編 『本邦化石産地目録』(1884) からわかること	B20 w 指田勝男・歌川史哲・ 上松佐知子・高津翔平 千倉層 群白浜層(後期鮮新世)野島崎 礫岩部層のチャート礫から産す る三疊紀・ジュラ紀放散虫化石	C20 m Kenji M. Matsuzaki・ Takuya Itaki First attempt to estimate past intermediate water temperatures in the northwestern Pacific based on radiolarians
A20 w 小川琴奈・林慎一郎・成 瀬元 目と耳で感じる生物攪拌 —ルール型格子モデルを用いた 体感型シミュレーション—	B21 w 松岡篤 ジュラ・白亜系 境界の国際境界模式層断面と ポイント:アジアと太平洋から の貢献	C21 m 久保田好美・脇坂恵都子 ・Steven Clemens・Ann Holbourn・Kyung Eun Lee・Martin Ziegler・木元克典・堀川恵司 東シナ海北部 IODP site U1429 の浮遊性有孔虫 Mg/Ca および酸 素同位体比に基づく過去40万年 の東シナ海の環境変動と東アジ ア夏季モンスーン

A 会場	B 会場	C 会場
研究史・研究法の部 座長:遠藤一佳	生層序の部 (2) 座長:堀利栄	古環境の部 座長:氏家由利香
A21 w 菊地一輝・成瀬元 露 頭画像のリサンプリングを用いた 生痕多様性評価方法	B22 w 酒井佑輔・関戸信次・ 松岡篤 石川一福井県境地域 における下部白亜系手取層群 の層序と植物化石群の層位学 的意義	C22 w 香月興太・瀬戸浩二 年 縞堆積物を用いた海跡湖の環境 における降水量・海水流入量変 化および人為的富栄養化の影響 評価
	B23 w 大井剛志・秋葉文雄・角 和善隆・松本良 日本海東縁 における上部第四系の珪藻 化石層序	

【13：00～14：30】【15：00～16：00】化石友の会イベント

「任務、恐竜とカメ化石の研究最前線を体感せよ！」

【13：00～14：30】ミッション1：普及講演会「岩手県久慈の恐竜発掘ストーリー」

- ・講師：平山廉 教授
- ・会場：早稲田大学 小野記念講堂
- ・定員：200名（申し込み不要）

【15：00～16：00】ミッション2：ラボツアー「平山教授の超とっておき、カメの秘められた歴史」

- ・講師：平山廉 教授
- ・集合場所：早稲田大学 小野記念講堂（ミッション1終了後、全員で移動）
- ・定員：40名（事前申し込み制）
- ・ラボの場所：早稲田大学 11号館7階706号室
- ・申込先：friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp 木村由莉（国立科学博物館）。受付漏れのないように、件名は【学会ラボツアー申込／〇〇／●名】でお願いいたします。〇〇には申込者のお名前を入れてください。●には申込人数をお書きください。1月15日締切。
- ・備考：友の会イベントのみの参加の場合でも、大人の方は学会参加費（1000円）が必要になります。小学生以下の場合、保護者の同行をお願いします。申込者数が定員を上回った場合、友の会会員を優先に抽選を行います。締切後、1週間以内に当選結果を通知します。

*******3. 発表方法及び機器についての注意事項など*******

<口頭発表をされる方へ>

- ・会場で使用するプロジェクタはXGA (1024×768) の解像度の横：縦の比が4：3の画面です。この解像度でスライドをご準備下さい。
- ・WindowsはPowerPoint 2010およびPowerPoint 2016、MacはPowerPoint 2011、PowerPoint 2016およびKeynoteがインストールされた機器を用意いたします。
- ・発表のデータは、各会場に設置された上記のWindowsないしMacに提出していただきます。午前中の発表者は朝の講演が始まる前までに、午後の発表者は昼の休憩が終わるまでに提出して下さい。
- ・各講演者は、電子ファイルをUSBメモリに保存してお持ち下さい。ファイル名には「A01_Yabe.pptx」のように、講演番号と筆頭講演者名を入れて下さい。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ポスターのサイズはA0 (841 mm×1189 mm) が基準です。一発表につき、横900 mm×縦2100 mmのポスターボード一面を用意する予定です。
- ・ポスターは1月28日 (土) の9：00から貼ることができます。なお、ポスターは、28日 (土) の18:30までに各自撤収して下さい。詳しくは会場受付または会場係員までお尋ね下さい。
- ・ポスターの掲示用画鋸は会場で用意します。

会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先

開催実行委員：守屋和佳 (早大・教育) メール：kmryps.jp@edu.waseda.ac.jp

電話：050-5317-9677

行事係：遠藤一佳 (東京大学) E-mail：endo@eps.s.u-tokyo.ac.jp

その他

- ・曜日により受付や一般講演に使用する建物が異なります。特に28日 (土) に受付が設置される大隈記念講堂から一般講演が行われる16号館までは徒歩10分程度かかりますので、十分にお時間の余裕を持って移動していただきますようお願い致します。

	1月27日(金)	1月28日(土)午前	1月28日(日)午後	1月29日(日)
受付場所	大隈記念講堂	大隈記念講堂	大隈記念講堂	14号館4階
シンポジウム	大隈記念講堂			
特別講演		大隈記念講堂		
口頭発表			16号館1階・7階	14号館4階
ポスター発表			16号館1階	

- ・28日(土)の一般講演は1階と7階に分かれて行われます。1階から7階へのエレベーターでの移動には10分程度の時間を要します。
- ・早稲田キャンパスは指定場所を除き構内全面禁煙です。喫煙は指定の喫煙場所をご利用下さい。
- ・大隈記念講堂内では全面で、14号館および16号館内では休憩室を除き、飲食できません。大隈記念講堂利用時は講堂外のUni.Café 125をご利用下さい。
- ・早稲田キャンパス周辺には、土日でも営業している飲食店が多数ありますので、お弁当は用意いたしません。早稲田大学構内の各飲食店の営業時間は以下のとおりです。

Uni.Café 125：月～日 8:30～19:30

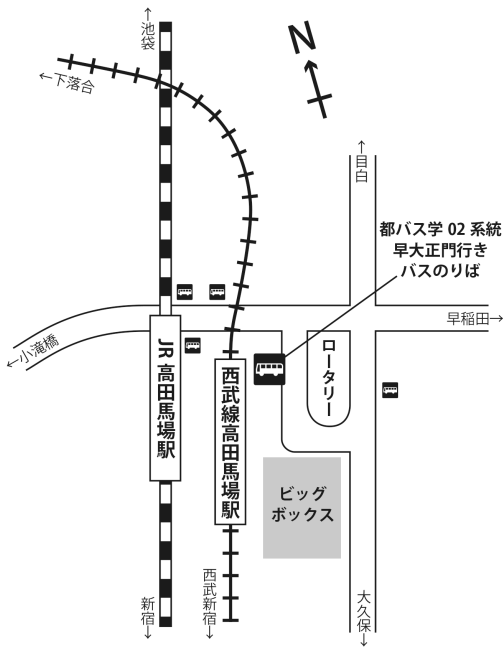
大隈ガーデンハウスカフェテリア：平日 10:30～19:50 土 10:30～15:15 日曜閉店
また、以下のURLから早稲田大学周辺の飲食店案内をご覧ください。

<http://www.dept.edu.waseda.ac.jp/paleobio/links.html>

- ・駐車スペースはありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- ・高田馬場、早稲田周辺には以下のホテルがあります。
ホテルサンルート高田馬場 (<http://www.sunroutehotel.jp/takadanobaba/>)
リーガロイヤルホテル東京 (<http://www.rihga.co.jp/tokyo/index.html>)
この他には、新宿方面のホテルが便利です。各種旅行代理店等をご利用ください。
- ・早稲田大学では構内使用上の規定により、構内における学外団体の物品販売等が禁止されており、物品販売を伴わない展示のみの出展を受け付けます。
- ・写真およびビデオ撮影について 発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します。

****4. 会場案内****

高田馬場駅周辺のバス停案内図

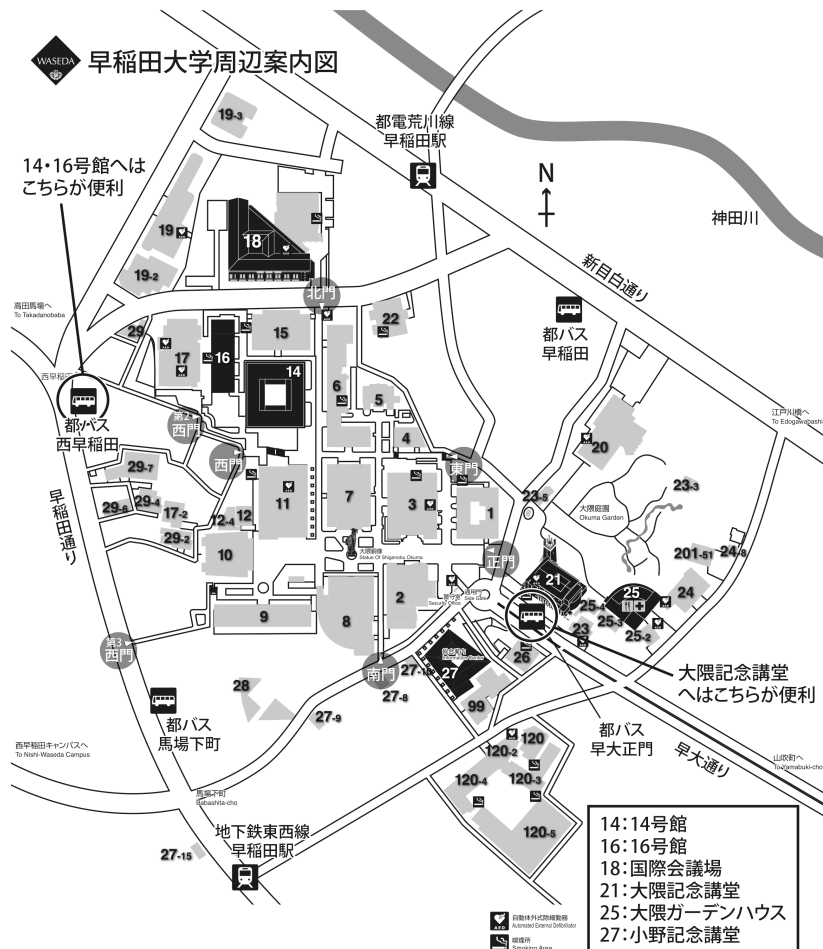


早稲田キャンパスの案内図

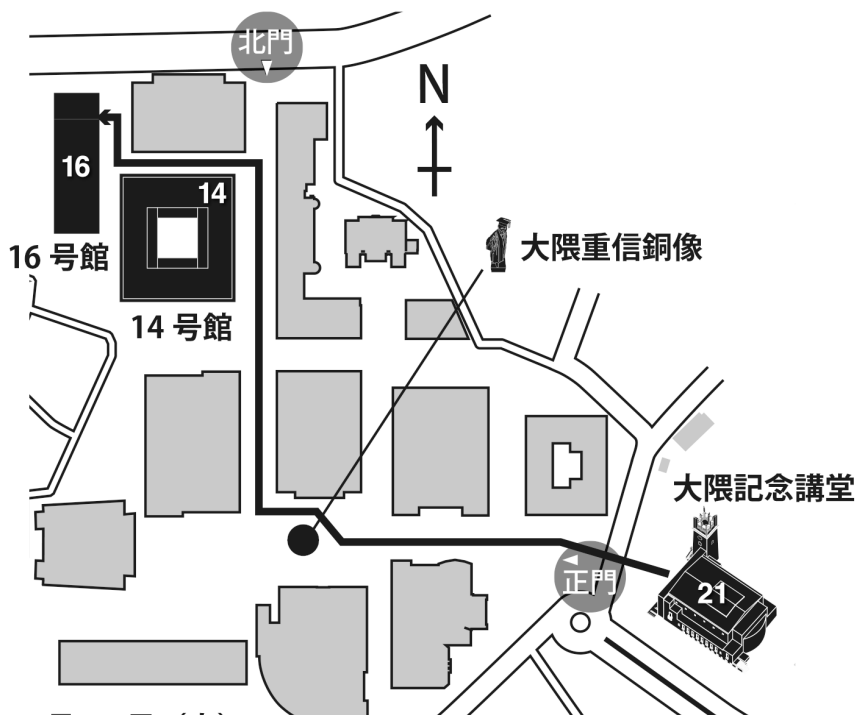


- JR山手線・西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分
- 東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩10分
- 東京メトロ副都心線 西早稲田駅から徒歩17分
- 都電荒川線 早稲田駅から徒歩5分
- 都バス(学バス) 高田馬場駅発→早大正門行き「早大正門」下車(所要時間6分)から徒歩1分(昼間は約4分おきに発車します)
- 都バス 新宿駅西口→早稲田(所要時間35分) / 上野公園→早稲田(所要時間30分)

早稲田キャンパス構内の案内図



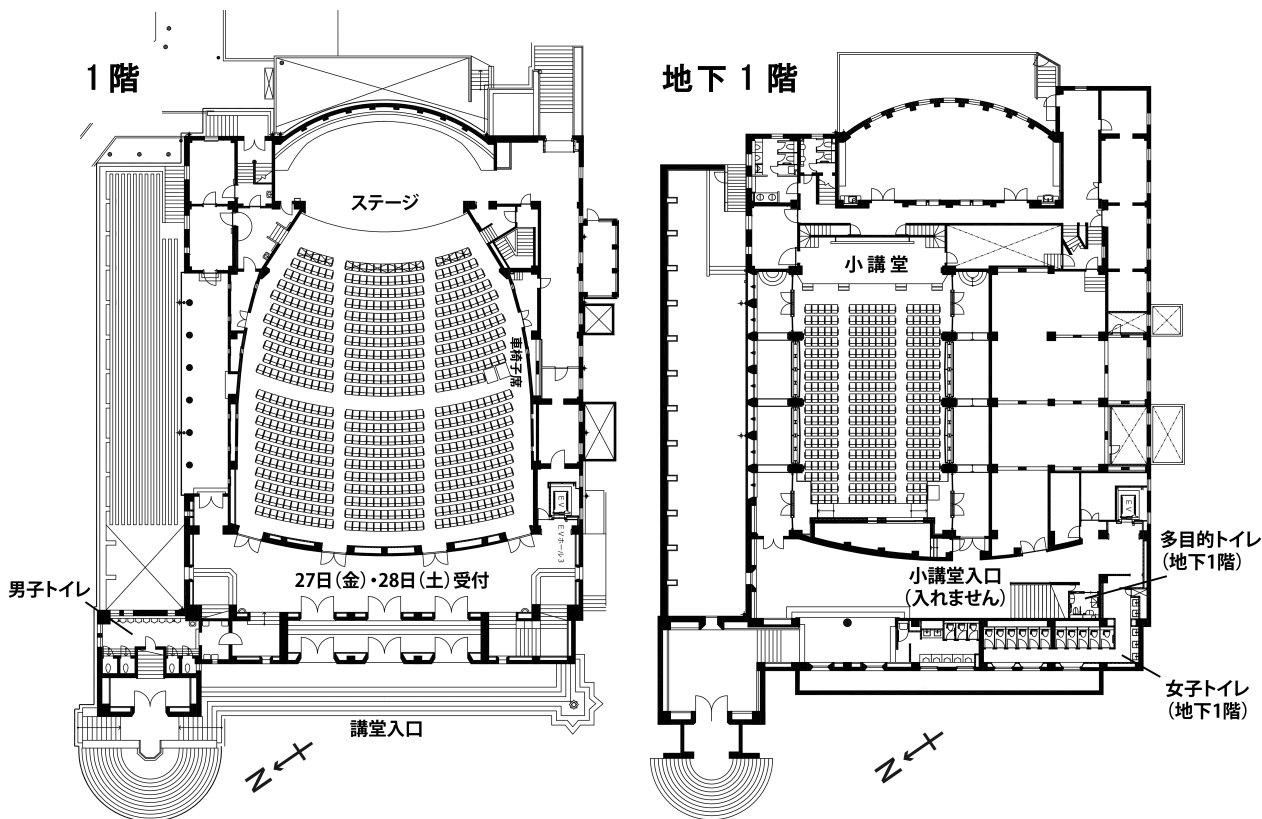
大隈記念講堂から 16 号館・14 号館への順路



**1月28日(土)
大隈記念講堂から一般講演会場への順路**

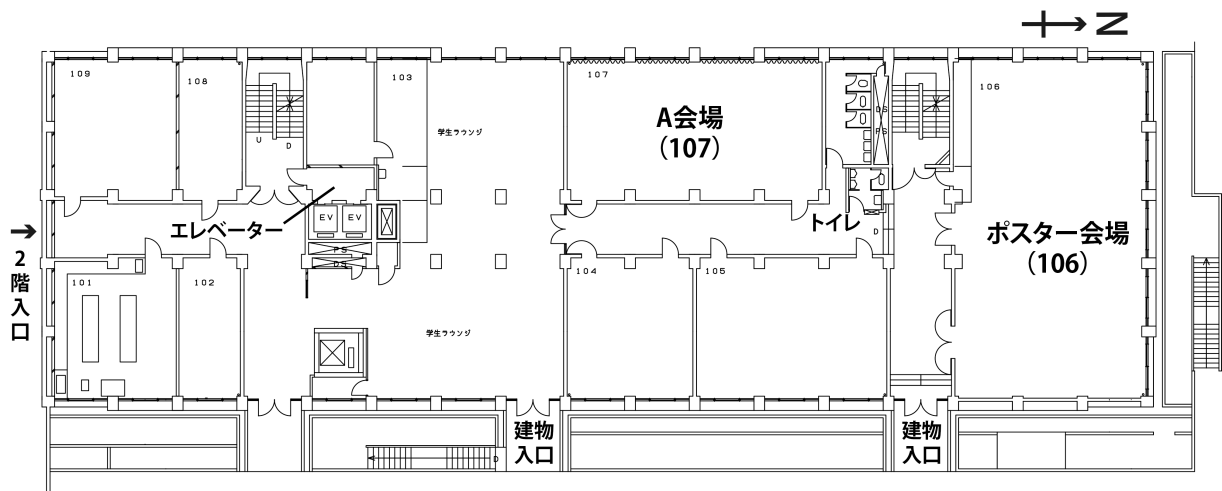
大隈講堂から正門（門はありません）を通り、大隈銅像を通過後に右折。
右折後、北門に向けて直進し、14号館の北側を左折。
坂を登り正面が16号館です。

会場案内（1月27日・28日午前：大隈記念講堂大講堂）



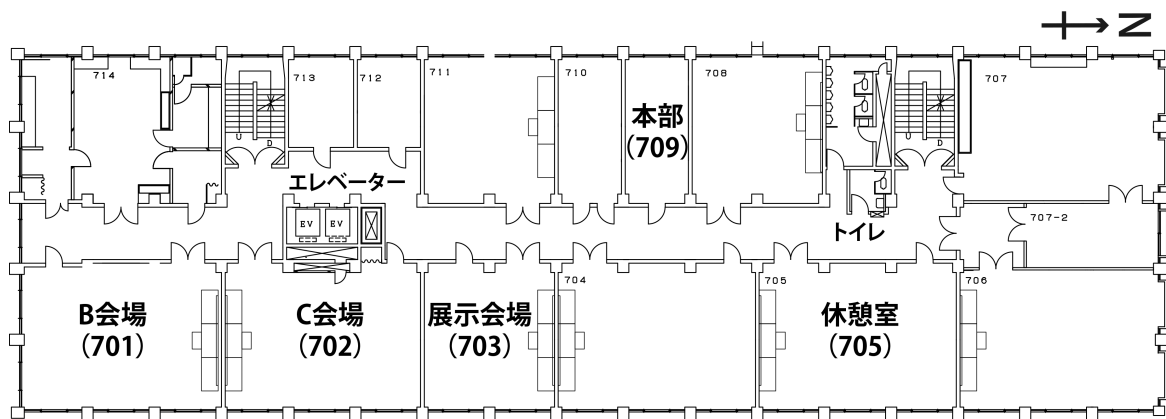
- ※ 1月27日（金）・28日（土）の参加受付は終日大隈記念講堂大講堂で行います。
- ※ 大隈記念講堂は国指定重要文化財のため、内部での飲食、喫煙、建物の改変（壁への掲示物添付等を含む）ができません。飲食は大隈記念講堂に向かって左手の Uni Café 125 ないし周辺の飲食店をご利用下さい。
- ※ 小講堂（地下1階）は、他団体により使用されております。小講堂には立ち入らないようお願いいたします。
- ※ 車椅子をご利用の方は、講堂南側のスロープから MB 階（半地下）にお入り頂き、エレベーターで1階までお越し下さい。

会場案内（1月28日（土）午後：早稲田キャンパス 16号館 1階）



- ※ ポスター会場にも展示コーナー、お茶等を用意します。

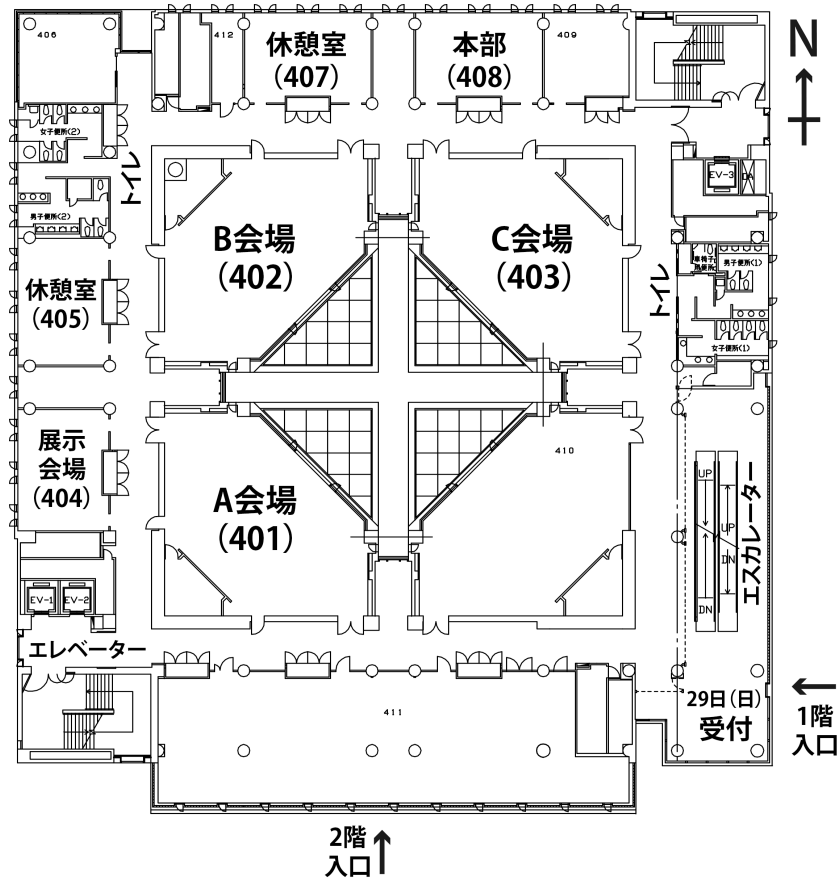
会場案内（1月28日（土）午後：早稲田キャンパス 16号館 7階）



- ※ 早稲田大学では、1月28日（土）は補講・試験期間の一部となっており、学会で使用しない教室では各種授業や試験が行われています。廊下等を移動する際等は静穏な環境の維持にご協力下さい。
- ※ 南側からは建物2階に入り口があり、東側からは建物1階に入り口があります。

- ※ 一般講演は1階と7階に別れて行われます。1階から7階への移動は混雑時には10分程度の時間を要します。
 - ※ 1階から7階へのエレベーターは8人乗りのものが2機しか設置されておりません。また、向かって左のエレベーターは2階～10階専用となっており、1階からご利用いただけるのは向かって右のエレベーターのみとなっております。お急ぎの場合は、階段で2階まで移動し、エレベーターをご利用下さい。
 - ※ 1月28日（土）の以下の時間帯は講義間の教室移動時間となっており、多くの学生のエレベーター利用が予想されます。ご理解、ご協力頂きますようお願い致します。
- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 08:50～09:00 | 10:30～10:40 | 12:10～12:20 | 12:50～13:00 |
| 14:30～14:45 | 16:15～16:30 | 18:00～18:15 | |

会場案内（1月29日（日）：早稲田キャンパス14号館4階）



- ※ 1月29日（日）の参加受付は14号館4階エスカレーターホールで行います。
- ※ 南側からは建物2階に入口があり、東側からは建物1階に入口があります。